

八戸市医師会 重建

NO. 653

令和 5 年 11 月 20 日

八戸市医師会



巻頭言 「重建に向かって」

(表紙題字：元八戸市医師会理事 小坂 康美)

目 次

表紙絵解説	大池 薫 … 2
☆巻頭言☆	
「再建に向かって」	野澤 俊雄 … 3
令和5年10月定例理事会	5
☆学 術☆	
第292回青森県南皮膚科医会学術講演会	16
☆臨床検査・診療メモ☆	
『医療と AI との関係に想う～2023』	17
☆倶楽部だより☆	
八戸市医師会ゴルフニュース（第7報）	19
八戸市休日夜間急病診療所利用状況	20
人・ひと	21・23
ドイツ留学思い出昔話41. 所変われば品変わる(9)	
(ドイツ人にとって、オペラとは?)	橋本 功 … 26
八戸市医師会立八戸准看護学院令和6年度学生募集要項	29
研修～リレー日誌～	30・31・32・33
会員消息	34
事務局日誌メモ	35
行事予定	35
編集後記	36

表紙絵解説

冬が来る前の楽しみは、何ととっても紅葉。八戸公園に紅葉狩りに行った時の一枚です。

黄色とオレンジのグラデーションが青空に映えて、とても綺麗でした。

今年はこの他、夏の暑さが厳しくて嫌になりました。温暖化で、夏が長くなり、秋が短くなるのでは？と言われています。この先、紅葉が観られなくなることが、無いように祈るばかりです。

(大池 薫)

巻 頭 言

「再建に向かって」

蕪嶋神社 宮司

野 澤 俊 雄

平成27年11月5日未明に社殿が不審火で全焼してしまいました。皆様方には大変ご心配をお掛け致しましたがお陰様で沢山の方々による善意のご芳志を賜り5年の歳月をかけて令和2年の3月にご遷座の運びとなりました。つきましてはその新社殿の完成に至るまでの過程をご説明したいと思います。

当神社の創建は鎌倉時代で御祭神は「市杵島姫命」通称「弁財天様」を祀っており、八戸藩のご加護をいただき、八戸城（現在の三八城公園）から見ると東方角に当たり、巽の方位つまり朝日が上る運氣上昇の方位と藩主代々ご信仰されております。

新社殿の建設には多難な諸問題がありました。先ず建物を建てるのに行政から確認申請を取るにあたり、国有地と神社所有地との境界線が不明なため、判別難関を乗り越えて平成28年11月1日に地鎮祭を斎行しました。平成29年6月4日に木造始祭（宮大工の棟梁が柱を削り寸法を確認する神事）、平成29年9月3日に御木曳行事（御用材の柱を蕪嶋に台車に乗せて運ぶ神事行事）、平成29年10月1日に立柱祭（柱建ての神事）を執り行い、平成30年8月5日には上棟祭の神事を執り行い、4年の歳月を掛けて工事が完了しました。最後の神事として令和2年1月元旦には本殿の玉垣内に敷石を敷く御白石持行事の神事を行い、令和2年3月25日の夕刻新社殿に神様をお移しする御遷座祭を執り行いました。これまでの神事は伊勢神宮の20年に1度の新社殿式年遷宮と同じ祭事で斎行いたしました。

それでは、新社殿の特徴を説明いたしたいと思います。構造は木造2階建て、床面積は147坪で焼失前の社殿の倍の大きさです。柱は檜と檜を使用し床下や化粧垂木には湿気に強い青森

ヒバを使い、通し柱は、長さ8メートルの材料を22本使い柱の数は大小合わせると196本であります。幸いのごとに地元の材料を調達できました。建具や天井板は厳選された秋田杉を使用し、内部の仕上がりは檜をふんだんに使用し、床板は全て檜の板を使用しております。屋根は銅板一文字葺きで壁は漆喰塗りとなります。拝殿は入母屋造りで正面の1階、2階とも唐破風があり「ウミネコの親子が羽ばたいている」イメージにしており、本殿は切妻造りでの社殿です。また、内部に於いては、御神像と玄関吹き抜けの天井に「飛天の奏」という題材で五体の天女が笙、竜笛、太鼓、琵琶の楽器で雅楽を奏で真ん中の天女は蕪の花を持ちウミネコに願い事を叶えて社殿から飛び立つという形で製作され、今年の春の例大祭には「恵比寿様大黒様」を納めました。幣殿の天井には水墨画家の白浪画伯（中国上海市出身）の「蕪嶋神龍」を墨絵で描いていただき、令和の新社殿として後世に残るものが完成いたしました。これから後は八戸並びに地域の方々と共に大切に携わって行ける神社であってほしいと願っております。



地鎮祭



木造始祭



御木曳行事



立柱祭



御白石持行事



上棟祭



完成新社殿



燕島神社・恵比寿様・大黒様